

デンソーテンレッドフェニックス バレーボール教室



協働まちづくり部生涯学習課
スポーツ推進係（内288）

デンソーテンレッドフェニックス略歴

「情熱を燃やし、常に高みを目指してはばたくフェニックス」

・概要

兵庫県神戸市に拠点を置き、活動する9人制実業団バレーボールチーム。
9人制リーグの最高峰 V9チャンプリーグに所属し、2020年シーズンから
2年連続準優勝を果たすなど、躍進を続けている。

部長：森下 拓
監督：竹口和三

暦 年	内 容
2022シーズン	第8回V9チャンプリーグ ファイナルリーグ第1位 (7月末時点)
2021シーズン	第7回V9チャンプリーグ 準優勝
2020シーズン	第6回V9チャンプリーグ 準優勝
2019シーズン	第5回V9チャンプリーグ 第3位 第88回全日本総合女子選手権大会 優勝 第34回「櫻田記念」全日本実業団選抜男女優勝大会 優勝

佐々木遥香選手略歴



- ・平成11年1月26日生まれ
- ・猪川小 — 第一中学校 — 盛岡誠桜高校 — 東北福祉大学
- ・大船渡アスリート応援団公認アスリート

母と姉の影響を受け、小学校4年生からバレーボールを始める。それまでは、保育園年中から水泳教室に通っていた。

ポジションはレフト（中学）、ライト（高校～大学）。大学3年の秋からリベロに転向。現在は、レシーバーを務める。

暦 年	内 容	備 考
H24 (中2)	岩手県中学校新人大会	優勝
H25 (中3)	中総体岩手県大会 バレーボール	ベスト8
H26 (高1)	高総体岩手県大会 東北高校選手権 南関東インターハイ 全日本高校バレー岩手県大会 岩手県高校新人大会 全日本高校バレー選手権(春高バレー)	優勝 第3位 決勝T進出 優勝 優勝、優秀選手賞 出場
H27 (高2)	高総体岩手県大会 東北高校選手権 近畿インターハイ 全日本高校バレー岩手県大会 岩手県高校新人大会 全日本高校バレー選手権(春高バレー)	優勝 優勝 出場 優勝、優秀選手賞 優勝、優秀選手賞 出場
H28 (高3)	高総体岩手県大会 東北高校選手権 中国インターハイ 全日本高校バレー岩手県大会 いわて国体バレー少年女子 全日本高校バレー選手権(春高バレー)	優勝、優秀選手賞 優勝 決勝T進出 優勝、優秀選手賞 第5位 出場
H29 (大1)	東北バレー大学リーグ(春季)1部 東日本大学選手権 東北バレー大学リーグ(秋季)1部 愛媛国体 東北地区大学総体 全日本インカレ	優勝 ベスト4 優勝 ベスト4 優勝 ベスト16
H30 (大2)	東北バレー大学リーグ(春季)1部 東日本大学選手権 皇后杯全日本バレー東北ブロック 東北バレー大学リーグ(秋季)1部 東北地区大学総体 全日本インカレ	優勝、スパイク賞 ベスト8 準優勝 準優勝、スパイク賞 優勝 ベスト16
R元 (大3)	東北バレー大学リーグ(春季)1部 東日本大学選手権 皇后杯全日本バレー東北ブロック 東北バレー大学リーグ(秋季)1部 全日本インカレ	優勝、ベストディガー賞 ベスト4 優勝 優勝、レシーブ賞、 ベストディガー賞 ベスト16
R2 (大4)	東北バレー大学リーグ(秋季) 全日本インカレ	優勝 ベスト8
R3	デンソーデンレッドフェニックス入団	

概要

- 経緯：**大船渡アスリート応援団公認アスリートの佐々木選手が所属する9人制実業団バレーボールチーム デンソーテンレッドフェニックスは、東日本大震災以降、被災地で復興支援バレーボール教室を開催しており、佐々木選手のアスリート公認が契機となり、当市での開催が実現した。
- 主催：**大船渡市、大船渡アスリート応援団
- 共催：**デンソーテンレッドフェニックス
- 後援：**大船渡市教育委員会、大船渡市体育協会
- 共催：**大船渡市バレーボール協会
- 日時：**令和4年5月5日(木・祝) 午前10時から午後4時まで
- 場所：**大船渡市民体育館
- 対象：**気仙管内でバレーボールに取り組むスポーツ少年団及び部活動のチーム
- 講師：**デンソーテンレッドフェニックスの皆さん
- 内容：**レシーブを中心とした基礎練習、スパイク等の実践練習、エキシビジョンマッチ、ミニゲーム等

参加チーム一覧

No	チーム名	区分 1	区分 2	選手人数
1	おきらいVBSS	小学生	女子	8人
2	キッピンVBSS	小学生	女子	8人
3	下矢作・横田VBSS	小学生	女子	12人
4	大船渡ブルーサンダース	小学生	混合	6人
5	米崎フェニックス	小学生	女子	15人
6	市立第一中学校女子バレー部	中学生	女子	18人
7	市立第一中学校男子バレー部	中学生	男子	9人
8	大船渡中学校女子バレー部	中学生	女子	8人
9	大船渡高校女子バレー部	高校生	女子	11人
合計				95人

バレー教室の様子

- ・デンソーテンレッドフェニックスの指導の下、バレーの楽しさを体感
選手の皆さんが各チームを2人ずつで担当し、丁寧に指導した。



バレー教室の様子

・デンソーテンレッドフェニックスの指導の下、バレーの楽しさを体感

午後からは、エキシビジョンマッチなどでハイレベルなプレーを披露したレッドフェニックスの皆さん。

佐々木選手の母校である市立第一中学校女子バレー部 佐藤キャプテンが、お礼の言葉を述べた。



市長表敬訪問

- ・ 竹口監督、佐々木選手が大船渡市長を表敬訪問



R4.4.5 東海新報

R 4.4.24 東海新報

9

報道関係

R4.5.6 東海新報

佐々木選手(大一中)らが指導

女子9人制の
デンソーテン 大船渡でバレーボール教室

兵庫県神戸市を活動拠点とする9人制女子実業団バレーボールチーム・デンソーテンは、市と同協賛が主催。同チームは積極的な指導活動に力を入れている。大船渡市市民体育館で開かれた。昨年発足した大船渡アスリートバレーボール教室



兵庫県神戸市を活動拠点とする9人制女子実業団バレーボールチーム・デンソーテンは、市と同協賛が主催。同チームは積極的な指導活動に力を入れている。大船渡市市民体育館で開かれた。昨年発足した大船渡アスリートバレーボール教室

本インカレなどに出場。昨年4月にデンソーテンレッドフェニックスに入団した。同チームは全日本9人制バレーボールトップリーグ(V9チャンピオン)のファーストリークに所属。昨年12月まで行われたリーグ戦・ファイナルトーナメントの最終順位は2位だった。



R4.5.11 東海新報

古里での指導が実現 デンソーテンレッドフェニックス 佐々木 遥香さん(23)

大船渡市猪川町出身で、兵庫県神戸市を活動拠点とする9人制女子実業団バレーボールチームに所属。大船渡アスリート応援団からエールを受ける縁でチームとして大船渡を訪れ、競技に励む小中高生を指導した。大船渡一中卒でもあり、「中学生の紫色のジャージが懐かしかった」と笑顔を見せた。

ポジションはレシーバーで、体を張った守備も披露。子どもたち一人一人に、上達に向けて丁寧に言葉をかけた。「東日本大震災を通じて、バレーボールが当たり前になるありがたさを思い知った。私も復興に貢献できれば」と語る。

コートネームは「イチ」で、何でも一番になるといった意味合いがあるという。今シーズンに向けては「目標は日本一」と、力強く飛躍を誓う。



R4.5.7 岩手日報

バレー上達願 古里の後輩指導

佐々木選手らに教室

神戸市の9人制女子バレーボールチーム・デンソーテンは、市と同協賛が主催。同チームは積極的な指導活動に力を入れている。大船渡市市民体育館で開かれた。昨年発足した大船渡アスリートバレーボール教室

下矢作・横田VBSの佐々木友香さん(陸前高田・矢作小5年)は「選手は常に、仲間がいる位置にパスを出す。見習いたい」と刺激を受けた。

佐々木選手は「バレーで地元貢献できることはうれしい。こうした機会があれば積極的に参加したい」と嬉しそうに話した。

市と大船渡アスリート応援団(会長・戸田公明大船渡市長)が主催した。

5月6日付7面「佐々木選手(大一中出身)らが指導 女子バレー」

5月6日付7面「佐々木選手(大一中出身)らが指導 女子バレー」

報道関係

I B C岩手放送による取材



5/5放送 ニュースエコー



報道関係

- ・ バレーボール教室の様子が、月刊バレーボールに掲載されました。



報道関係

・デンソーテンレッドフェニックスの公式HPにも掲載



ARTICLE

活動レポート

2022年5月5日・6日

岩手県大船渡市で復興支援バレーボール教室を初開催

「自分たちの得意なバレーボールで何か復興のお手伝いができないか」。そんな思いから2012年より福島県にて「復興支援バレーボール教室」を継続的に実施しています。今回は岩手県大船渡市からオファーをいただき実施することになりました。実は佐々木選手（イチ）の故郷が大船渡市ということもあり、5年経った「大船渡アスリート応援団」に公認アスリートとして選ばれたことで今回のバレーボール教室が実現しました。当日は小、中学生総勢100名を対象にバレーボール教室を行いました。

※主催：大船渡市、大船渡アスリート応援団



戸田大船渡市長を表敬訪問いたしました。

バレーボール教室の翌日、大船渡市役所にて、竹口副市長とイチが大船渡市の戸田公明市長を表敬訪問し、教室の様子や大船渡市出身のアスリートなどについてお話ししました。活躍されているアスリートを多く輩出され、なんと、特で活躍の佐々木選手（千葉ロッテマリーンズ）も大船渡市出身。「大船渡の人は一体何を食べてるのか？」とイチも聞かれたことがあったようです。「なんですかね。お魚が美味しいので私はさんまをよく食べています」と、大船渡市はさんまの水揚げ本州NO1であることがアピールしていました（笑）。復興復興へのお話も聞かせていただき、有意義な時間を過ごすことができました。戸田市長からは、「ぜひ継続して教室の実施をお願いします。これからも応援しています。頑張ってください。」と激励の言葉をいただきました。



当日の様子を紹介！

会場

大船渡市民体育館

参加チーム

[小学生] おきらいVBSS/キッピンVBSS/下矢作・横田VBSS/大船渡ブルーサンダーズ/米崎フェニックス 約50名

[中学生] 市立第一中学校（男女）/大船渡中学校 約35名

[高校生] 大船渡高校 約15名

練習メニュー

[午前] ・ウォーミングアップ・パス・レシーブ練習（オーバーカット、3人レシーブ）

[午後] ・エキシビジョンマッチ（紅白戦）・午前中のおさらい・スパイク・ゲーム形式

コロナ禍もあり、私たちも大きなバレーボール教室は3年ぶり。楽しみな反面、不安もありましたが、体育館に入るなり「歓迎 レッドフェニックスの皆さん」「頑張れ！佐々木選手先輩」の横断幕が私たちの目にパッと入り、「よっ！参加している子どもたちにバレーボールで還元しよう！」とより一層力が入ります。最初は子どもたちも緊張した面持ちでしたが、ウォーミングアップがはじまると徐々に身体も表情もほぐれていき、選手との距離が縮まってきました。午前中はレシーブ練習を中心に行い、3人レシーブではボールを触らない人の動きの大切さ、カバーの動きをレクチャーしました。イチがレシーブの見本をすると、会場からは拍手喝采。「普段の練習で学べないことを教えてもらったので良かったです。佐々木選手のレシーブはもちろん、全体的にすごいです！」と子どもたちは目を輝かせていました。午後からは選手による紅白戦を行い、迫力あるプレーが飛び出すと“すごい”と驚くばかりに前のめりになりながらプレーを観戦していました。「普段なかなか実戦の方のプレーを目にする機会がないので、非常に良い機会です。ありがとうございます。」と主催者から嬉しいお言葉をいただきました。午後からはさらに体育館は笑顔と熱気に包まれ、最後のゲーム形式では選手が一緒にコートに上がり、1点取ると大喜びしていた様子が印象的でした。

岩手県での復興支援バレーボール教室は初めてで、選手の故郷で教室を実施するのも初めてでした。色んな縁が繋がり、皆さんと出逢えたことは私たちにとても非常に助になりました。大船渡市、大船渡アスリート応援団の皆さまをはじめ準備いただきました関係者の皆さまへ感謝します。



佐々木選手（イチ）のコメント

今回、故郷で自分の好きなバレーボールを子どもたちに教えるのは感慨深いものがありました。バレー教室が終わってたくさんの方から、「楽しかった、ありがとう」という言葉をいただきました。こうしてバレーボールを通して地元に戻って来たこと本当に嬉しく思います。レッドフェニックスは「やって楽しい見て楽しい」バレーボールをコンセプトに活動しているので、このことを受贈者の方に感じてもらえたいと思います。今回のバレー教室で改めてたくさんの方に感謝され、支えられていることを実感しました。その感謝に応えられるよう、私も日々の練習、そして6月4日から始まるチャンプリーグに向けて挑みます。本当にありがとうございました！



お礼のコメント（大船渡市協働まちづくり部 生涯学習課 スポーツ推進係 宮山 様）

この度は、デンソーテンレッドフェニックスの皆様のご厚意によりバレーボール教室を開催していただきまして、誠にありがとうございます。最初のアップの段階から子どもたちのやる気のお上手で、おとなしい大船渡の子どもたちがすぐに夢中になって楽しんでいるのがわかりました。また、生で見る選手のプレーは迫力満点で、特にイチ選手の見事なレシーブに子どもたちは「ヤバイ！」を連発！

選手たちには何気ないプレーでも、子どもたちにとっては一つ一つが新鮮で、高いレベルのプレーを観ることができたのは、大きな財産になったと思います。大船渡アスリート応援団が主催する初めてのスポーツ教室でしたが、皆様のおかげで本当に素晴らしい教室となりました。神戸と大船渡、距離にするとおよそ1,000kmも離れていますが、これからも交流を続けていきたいと思います。

未来のイチ選手が、ここから誕生することを楽しみにしています！

総括

【事業の効果、成果】

- 1 東日本大震災発生以降、復興支援の一環として、実業団等によるスポーツ教室が数多く開催されたが、近年はそうした機会がほとんどない状況であり、レベルの高いプレー、指導に触れる機会が、スポーツ振興に好影響を与えた。
- 2 参加者及び関係者からは、大きな反響と好評を得ており、来年度以降の継続開催を希望する声が多数寄せられた。
- 3 教室の開催に当たっては、市バレーボール協会が積極的に参画したことにより、参加者募集や当日の運営などスムーズに進めることができた。当協会は、来年度以降の開催についても意欲的であり、民間主体の交流の展開が期待される。
- 4 ゆかりのアスリートを積極的に応援していく当市の姿勢を、広くアピールすることができた。
- 5 陸前高田市のチームにも参加いただいたことにより、当市だけでなく広域での連携を深めることができた。
- 6 佐々木選手はじめ、デンソーテンレッドフェニックス（Red Phoenix）との親睦を深めることができた。
- 7 Red Phoenixからは、「岩手県での復興支援バレーボール教室は初めてで、選手の故郷で教室を実施するのも初めてだが、色んな縁が繋がり、皆さんと出逢えたことは選手たちにとって非常に励みになった。大船渡市、大船渡アスリート応援団の皆さまをはじめ、準備いただきました関係者の皆さまへ感謝します。」との感想をいただいた。また、来年度においても、バレーボール教室の開催について、前向きな考えが示された。
- 8 Red Phoenixのご厚意により無償での開催となったため、費用対効果の高い事業となった。

総括

【課題、反省点等】

- 1 9人制バレーボールリーグでは、在京のチームが1チームしかなく、関西圏を中心に活動しているため、当市に来訪可能な日程が限られる。
- 2 年間を通じてスポーツ少年団の大会が数多く開催されており、上記1の日程とスポ少の空き日程の調整が難航する可能性がある。
- 3 Red Phoenixの昼食や軽食、飲み物等の予算を確保する必要がある。
- 4 佐々木選手及びRed Phoenixを引き続き応援するとともに、大船渡市体育協会及び大船渡市バレーボール協会と連携し、次年度以降もデンソーテンレッドフェニックスバレーボール教室の開催に向けに取り組む。